

桐原 純男 議員

**Q** 農業の6次産業化やブランド化への支援策は道の駅、加工所付き物産販売所はつくるべき

**A**



6次産業成功例 モクモクファームでのハム販売

**桐原議員** 国は6次産業化を推進しているが、個人で企業との連携や契約販売の締結は、むずかしい。知名度や信用力のある南阿蘇村が、専門の対策室を設けて、新規作物の導入や6次産業化、ブランド化等を支援する事が必要では

ないか。また農政課に、発想力のある職員を増員する考えはないか。議員研修で伊賀の里手作りファームという、6次産業化を成功させた農場を視察した。村でも第一歩として、体験型農産物加工施設等を作り、景観を利用した観光施設と連携した農業のテーマパークを作ったらどうか。

**農政課長**

6次産業化やブランド化は、まず販路の確



ウインナー作りを楽しむ参加者

保が必要。また加工施設を大きくすると、生産者がリスクを抱える心配がある。しかし加工施設がなければ、農産物の試作もできない。今後の検討課題だ。これらを成功させるには、生産者が、意欲を持ってやらなければだめだ。行政主導では成り立たないと思う。

村長 道の駅ぐらいの規模の、6次化へ向けた加工施設を付帯した物産販売所は作るべきだと思う。

農政課に職員を増やす予定は現在ない。しかし、良い指導員を求めたい。

**Q** 村道の、安全性の把握と、通行制限は

**A** 迂回路がなければ制限できない。今後検討する

**桐原議員**

通行制限がない村道で、大型車両が頻繁に通行している橋の強度は大丈夫かと思われる箇所がある。強度の可否や車両の大きさ、通行量等、危険だと把握した場合、通行制限は村でできるのか。また、新しい道路が

**通行制限**

は橋梁も含まれるが、路線全体で考慮し、迂回路があれば、路面の破損を防止するため車両の総重量等制限でき

できた際に、地域住民には相談なく取付け道路が新設され、既存の道路が封鎖された。その結果道路の形状が複雑になり、危険性が増したような箇所がある。住民の意見を反映し、再度、村や関係機関と協議して安全上最良の状態に変更することはできるのか。

**建設課長**

渋川橋と思うが、現に主桁や板、高欄に劣化や鉄筋の露出がある。速やかに高欄の安全対策からやりたい。



劣化し、危険な状態の橋

また既設道路交差点の進入を封鎖との指摘があったが、この件は、警察から交通上危険であるとの要請があり、地元区長、関係者立ち会いのもとガードレールで閉鎖した。指摘のように、どうしても都合が悪い状況なら、警察とも協議をしながら、今後検討していきたい。